

# ハート・オブ・ゴールド



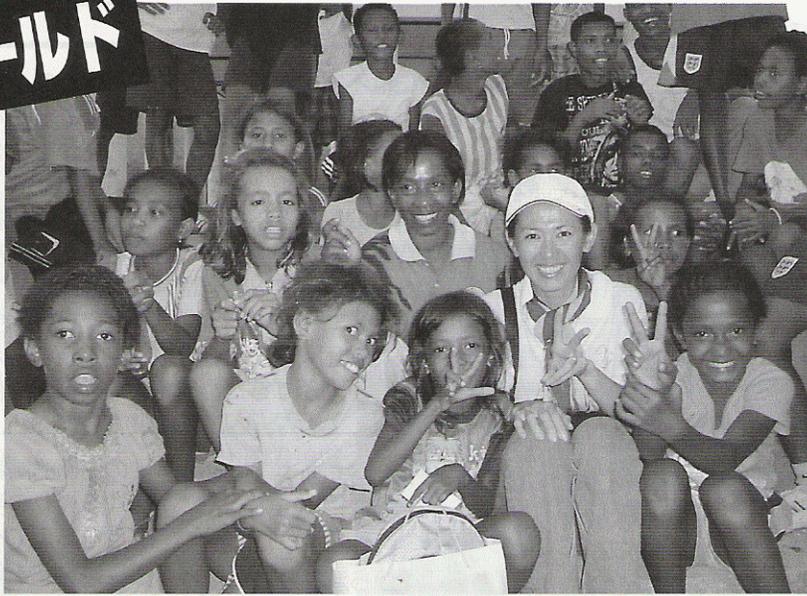
通信

vol.14

2005年12月24日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局  
 本部 〒701-1213 岡山市西辛川872-2  
 T&F 086-284-9700  
 メール: hearts05@hofg.org

URL : <http://www.hofg.org/>



有森代表の左上がアギータさん

東チモールの子どもたちと  
 オリピック選手であるアギータさんは、オリピックをめぐっている58名の子どもたちの夢をはぐくんでいる。ハート・オブ・ゴールドはこのチームアギータの支援をはじめます。皆様のご協力をよろしく願います。

## 第10回 アンコールワット国際ハーフマラソン 2005 盛大に

& アンコールワットウォーキング

世界22カ国から1979人が参加



年々カンボジアの参加者も増加



遺跡の中を走るコースは人気があり、リピーターが多い



### 青少年スポーツ祭

カンボジア王国教育・青少年スポーツ省が主催するYLTS祭(スポーツを通じた指導者、青少年育成の祭典)は、スパイリンスタジアムで開催された。

10周年という節目を迎えたアンコールワット国際ハーフマラソンは、11月20日、世界遺産・アンコールワット周回特設コースで開かれた。過去最高の世界22カ国、1979人が参加、健脚を競った。

前日の11月19日には、アンコールワットウォーキング大会、21日は、指導者育成コーチングクリニック、22日は青少年スポーツ祭が開かれるなど、4日間にわたる多様で盛大な取り組みとなった。

ハーフマラソン男子はヘム・ブンティーン(カンボジア)、女子はマッキントック・ジョイ(米国)、10キロ男子はソック・サウ(カンボジア)、女子はグリン・アミー(豪州)が優勝した。

主催:カンボジア陸上競技連盟(KAAF)、カンボジアオリンピック委員会(NOCC)

主管:カンボジア陸上競技連盟(KAAF)

運営協力:ハート・オブ・ゴールド

後援:カンボジア王国政府、在カンボジア日本大使館、アジア陸上競技連盟、日本陸上競技連盟ほか多数

特別協賛:第一三共株式会社

協賛:銀座ステファニー化粧品

就実学園、ANGKOR BEER

協力:(株)アシックス、コニシ(株)、

(株)小学館、(株)大手饅頭伊部屋、

関西国際空港(株)、(株)中国銀行ほか

大会後、カンボジアトラストにエントリー料の一部を寄付 →



ハーフ男子優勝ブンティーンさんと女子5k優勝のスリーさん



車椅子、義足、一般の人と一緒に走ります



◇スポーツ専門家派遣者(5年連続参加)バレー(小柳記代子)・バスケット(原田結花)・サッカー(佐々木則夫)・バドミントン(渡部哲賢)・柔道(太田正和)ほか  
 ◇マラソン専門家派遣(西川公明、藤田和洋、西角智成、君原健二、有森裕子)ほか

10年間のマラソンと5年間のスポーツ祭が成功できたのも、専門家の先生方とともに会員の多くの方々が続いて毎年ボランティア参加を頂いているからこそで、この場を借りて深く感謝申し上げます。

## 「カンボジア社会と私たちの暮らしー悲劇・想像・共感」

同志社大学 藤本稔彦



右端が筆者

私たちHGJYA、HGCAは、プノンペン滞在中にポル・ポト政権時、収容所となっていたトゥール・スレン博物館、最期の場になったキリング・フィールドとスモーク・マウンテンというごみ山を訪れました。

トゥール・スレン博物館では、錆びついた鉄のベッドと鉄の足かせが何もない部屋に無機質に置いてあり、当時の拷問の様子を示した写真とともに展示されていました。

また、キリング・フィールドでは、木に子どもを打ちつけ殺した後がくっきり残っており、観光用に整備されている道にも白骨化した骨や衣服がむき出しに埋まっています。

一緒に回っていたHGCAの親族もその惨劇に遭ったそうです。

表面上はとても明るいけれど彼らは深い傷を抱えながら毎日を生きています。

「あなたたちは友達だから私は良いガイドになって一生懸命案内します。でも、カンボジア人は絶対ここにはきません。」

「あの写真室には入りたくない。親戚の写真がありますから。」

とあるHGCAは話してくれました。ポル・ポトが「完全な兵士」と賞賛した地雷は地方に広く埋設され、今も被害に遭う人が後をたたないと聞きます。

私たちが青少年、指導者育成スポーツ祭を開催したグラウンドでは、9月に30発を超える不発弾を回収したというお話も伺いました。

生命の危機を感じながら生活することの不安は、また不条理な暴力により大切な人びとを失った痛みは私の想像を絶します。

私たち日本人にとって、戦争を記憶する人たちは年々少なくなり、戦争は「昔話」になりつつあります。なかなか私たちは日常の生活に生命の危機や明日生きることの不安を想像出来ないかもしれません。では、

私たちの日常には不安や痛みを抱えている人たちは存在しないのでしょうか。

戦争の後遺症で痛みを抱え続ける人たちが水俣病や公害など不条理な力により「生きる」ことが左右される人たちの姿を私ははっきりと目にします。

生まれながらに貧困、不安という構造的暴力について理解するために

### ボランティア活動として

医師 高寺博史

子どものころから漠然とした憧れを抱いていたジャングルの中のアンコールワット。しかし20世紀の政治の振り子の中で翻弄されたカンボジアの復興は多難だろう。人々の心の傷は未だ癒えていないだろう。たとえそうであっても、もしそこに将来に対する希望が生まれつつあれば、少しでもボランティア活動としてそれに協力したい、そしてその活動から私も生きていくエネルギーを得ることができるかもしれない。このような様々な期待と疑問と個人的思惑をかかえて、救護班医師として参加しました。

しかしあの衣服を穿通するようなカンボジアの光とアンコールワット

### 二人の友との出会い

宮崎県立大宮高校1年 西 洗平

今回10回目のスタデーツアーに参加する事ができ本当に感謝しています。このツアーは僕の16年間の人生の中で、とても影響力の強いものとなりました。一番印象に残っていることは、僕と同年の子と二人仲良くなる事ができたことです。

一人は、二日目のウォーキングのときに一緒に歩いた子。その子は日本人と話しているかと思うほど日本語を話し慣れているようで、積極的に日本について質問をしてきた。同い年らしく学校での流行や友達について等だったが、僕もその子と様々な共通点をもつことができたし、文通をすることになったので、これからもその子との関係が続くと考えると思ふ。

もう一人は、四日目のスポーツ祭典で、お互い簡単な英語で会話を交わし一緒にスポーツを楽しむことによって最後には行動をともにするほ

は、このように自分の身のまわりの日常に目を向け、ローカルな暮らしのなかで様々な気付きを得ることが大切です。

世界的な課題を解決するヒントは私たちの日常の暮らしのなかにあるのではないのでしょうか。

最後に、今回私にこのような貴重な機会を与えてくださいました皆様にこの場を借りて深謝いたします。

の圧倒的威容のもとでランニングをする人々の姿は、私に全く新しい視点を与えてくれるものでした。真新しいシューズで眼を輝かせ走りぬいた子ども達。義足であっても走るのは当然だ、と言わんばかりのランナー。あの灼熱の太陽を楽しむような世界各国からの人々。全てが感動に満ちたアンコールワットの絵巻物でした。過酷な歴史と貧しい国土のカンボジアという私個人の思い入れなどとは無関係に、人類の宝アンコールワットの下で自分の力を発揮できる場を得たという、カンボジア人の誇りと集まった外国人の敬意が、生き生きとした躍動感として、伝わってきたのかも知れません。

ハートオブゴールドの活動に参加させていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。



どに仲が深まっていた。

しかし、仲の良い友達ではできなかったものの、コミュニケーションが十分にできないということを痛感した。

ハーフマラソンを走り終えた時のすがすがしい気持ち、スポーツを通してカンボジアの人達に触られたこと、有森さんのあいさつの中で、勇気と希望を与えるというのは、カンボジアの人達にはではなく、そこにあつまった人1人1人にある、という言葉があった。僕は改めてこのツアーの持つ意味、子ども達の平和な未来を思った。たくさんの人と同じ気持ちを分かち合えたという連帯感、達成感、この経験を次の夢につなげたい。

待っていてくれ、きっとまた君達に会いに行くから…

学生ボランティア  
市・淡路夢舞台  
県、神戸市、産  
阪神大震災の  
を見つめ直し、新  
周年記念事業で  
森裕子代表理事  
念対談が行われ  
カンボジアか  
Ambassador) (



前列右

### ケオ・ソ・ラ

8月27日

この日は、国際会議で有森さんの鼓踊りがあり、私親睦を深めた。午後終わり、その後有カンボジアの現状うために、アンコの活動を、会議参

この日の会議で籍に関係なくコミンをとっている姿「ボランティア」と味をより理解する。

8月28日

今日は朝から、レーシア、ベトナムアをしていたグループの体験や互にお互いに意見を交は、様々なグループ識を交換したり、たりとより円滑に出来るように議

8月29日 富士山

自然の美しさにも感もかわらず、富とても寒いことに

8月30日 岡山県立図書館を見学。

8月31日 三菱自

# ボランティア国際大会

ボランティア国際大会が、8月27日・28日、兵庫県淡路国際会議場で開かれた。(実行委員会主催、兵庫県経新聞社、産経新聞厚生文化事業団共催)復興支援を機に高まった学生ボランティアの役割を担うネットワークづくりに結び付ける震災十周年、「私にとってのボランティアとは」と題する有識者、大阪ボランティア教会事務局長 早瀬昇氏の記述を収録した。また、HGCYA (Hearts of Gold Cambodian Youth) の2名を招聘、参加報告を寄せてもらった。



左から3番目がチェトラさん4番目がヴィルンさん

## チェトラさん&プルム・ヴィルンさん

ボランティア国際大会記念対談。私たちも参加した後4時に会議が森さんがよりを知ってもらった。オールワットで加者に語った。は、年齢や国ユニケーションを見て、私はこの言葉の意

カンボジア、マムでボランティアグループが、その感想を発表し、換した。午後ブが集まり、知意見を交換しボランティア論をした。ご登り、日本の動した。夏に土山に登ると、驚いた。宇訪問。岡山県

自動車工場ほか

の見学。

**9月1日** 午前旭川荘を見学、岡山外語学院に向かった。この学校では、様々な国の留学生が日本語を勉強していた。

**9月2日** 2つの小学校で、日本の子ども達と交流した。自己紹介をしてから、様々な質問を受けた。その後、カンボジアで子どもがよく遊んでいるゲームで日本の子ども達と遊んだ。また、カンボジアの歌を歌ったり、その歌の意味を説明したりと時間は短かったのだが、大変楽しかった。最後に、カンボジアの国旗とおもちゃ、お菓子をプレゼントし、記念写真を撮って、子どもたちと別れた。

夕方、RSKテレビ出演。

今回の日本見学と国際ボランティア会議に参加して、ボランティアの意味を理解することが出来たし、日本について本当に勉強になったと思っている。話し合いや、助け合い、努力することは自分からすることであり、他者からしてもらうことではない。これに気をつけられ、自分自身を改善していくことが出来るのである。

(一部抜粋)

# カンボジアからスルン・レアン氏

## 「海外技術移転プログラム」研修生として来日中!

担当ボランティア 阿部三千代

現在、岡山県の「海外技術移転プログラム」の研修生としてカンボジアからスルン・レアン氏を招聘しています。このプログラムは、発展途上国の地域の技術水準の向上を図り、岡山県とその地域の交流の発展に寄与することを目的としたものです。

スルン・レアン氏(32歳)は、自国にて教育青少年スポーツ省学校体育スポーツ局で国家公務員として働いており、学校体育スポーツ局長の指示で、指導要領作成担当官に任命されています。

10月20日に来日され、主に日本での体育教育全般を学んでいます。10月22日の国民体育大会の開会式への出席を皮切りに研修が開始。岡山国民体育大会では、バスケットボール・ボクシング・空手・バレーボール・ソフトテニス・陸上を観戦。また「輝いて!岡山大会」(障害者スポーツ大会)では、陸上・バスケットボール・卓球・水泳を観戦しました。両大会ともに設備の凄さと競技の多さに感銘を受けている様子でした。選手の競技にかける熱意と各開催地にて人々の温かい応援を肌で感じたことでしょう。

10月末より岡山学芸館高等学校、岡北中学校、岡山大学などで研修を受けました。各学校にて温かく迎えられ、主に体育授業の見学や参加、体育指導方法理論や体育教員のあり方の指導を受けています。中学や高等学校でのクラブ活動また岡山県中学校体育連盟秋



左 レアン氏

季大会の視察もされました。岡山大学では、それに加えて体力テストや保健体育理論についても学びました。現在は岡山国際交流センターにて日本語研修を受けておられます。

帰国後は、カンボジアの小学校体育普及の中心人物としてご活躍されます。自国の体育教育の発展を心から願い、懸命に研修に励まれている様子です。

### ●レアン氏の今後の研修予定

- ・1月10日～17日 岡山県立大学
- ・1月18日～24日 吉備国際大学
- ・1月25日～2月3日 岡山市立牧石小学校
- ・2月6日～17日 筑波大学
- ・2月20日～3月3日 岡山市立芳明小学校
- ・3月5日～9日 岡山大学教育開発センター
- ・3月13日～15日 株式会社岡山スポーツ会館
- ・3月20日(月) 帰国

### ●レアン氏よりメッセージ

私の名前はスルン・レアンと申します。皆様に私の履歴を簡単にお話します。水泳が得意で、国内水泳大会にて優勝したことがあります。1993年にはChay Chou中学にて体育教師と英語教師を兼任しておりました。1995年にプノンペン市にある教育青少年スポーツ省・体育スポーツ局にて勤務。2002年より学校体育スポーツ局に異動し現在に至ります。また、カヌー指導者としてラオス・シンガポール・タイ・日本・マ

レーシアを訪問したこともあります。

上司のプルン・ブンジー氏が私を推薦して、ハート・オブ・ゴールドが私達の要望を聞き入れてくださり、岡山県庁が岡山県にて日本の体育教育システムを学ぶ研修を受ける為に私を受け入れて下さいました。

現在、私は岡山県にて研修をしており、このような機会を与えてくださった方々にとっても感謝しています。